

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	「てんぼくツーリズム・ブランドの確立」にむけた基礎調査と社会実験		
(2) 実施団体名	てんぼく活性化協議会	(3) 対象地域	北海道 幌延町・天塩町・遠別町(留萌北部地域、以下、てんぼく地域とする)
(4) 代表団体名	株式会社ドーコン総合企画部	(5) 推薦団体名	幌延町・天塩町・遠別町

(6)実施した取組の内容	取組①	事業推進会議の開催	
	実施主体	主担当:雪印乳業株式会社幌延工場、北海道遠別農業高等学校、天塩商工会、(株)ドーコンほか(全25組織)	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		①実施内容: 専門家(2名)を招集した会議(3回)の開催 ②実施時期・実施場所: 8~3月、てんぼく地域内 ③実施目的: 個別プロジェクトの状況確認と内容協議、ツーリズム・カレッジの企画および評価	①実施内容・実施時期・実施場所 第1回会議(H20.10.14、天塩町、企画): 25名+専門家1名(北大・森重) 第2回会議(H21.01.19、遠別町、中間): 25名+専門家1名(HVC・三浦) 第3回会議(H21.03.12、幌延町、評価): 50名+専門家1名(HVC・三浦) ②実施結果: 企画・調整開始時期が予定より遅れたため、時期・内容を見直しながら実施。事業全体の多様性から、現構成員以外の組織や人材等の参加が課題。
	取組②	プロジェクト別会議の開催と実証実験の実施	
	実施主体	【ツアー開発部会】旭温泉、北斗観光物産、てしお温泉「夕映え」ほか、【商品開発部会】北海道遠別農業高等学校ほか、【トレーサビリティ検討部会】北るもい漁業協同組合天塩支所ほか、【てんぼくファン開発部会】3町役場ほか	
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	【ツアー開発部会】連携・複合型観光プログラム開発プロジェクト ①実施内容: 専門家(1名)を招集した勉強会(6回)と実証実験(ツアー3回)の開催 ②実施時期・実施場所: 勉強会は8~1月。ツアーは8・10・2月。いずれも遠別町・天塩町・幌延町で。 ③実施目的: 地域主導型ツアーの企画・勉強・実証実験・評価	【ツアー開発部会】連携・複合型観光プログラム開発プロジェクト 1)実施内容・実施時期・実施場所 ●勉強会: ①10.14・天塩町・25名、②12.11・幌延町・5名+荒井(ねおす)、③01.19・遠別町・25名、④02.01~07・遠別町・20名+宮本(ねおす)、⑤02.14~15・幌延町・20名+鈴木(宝島)、⑥02.21~22・天塩町・20名+木野(北大)、⑦03.12・幌延町・50名 ●実証実験(ツアー): ①遠別ツアー(02.01~07)・51名、②天塩ツアー(02.21~22)・50名、③幌延ツアー(02.14~15)・20名 2)実施結果: 企画・調整開始時期が予定より遅れたため、回数・時期などを見直しながら実施。ツアーは、商品開発&ファン開発と連動した魅力的な内容になったが、今後は、通年化、事業性向上、関連業界との連携等が必要。	
	【商品開発部会】安全で安心な商品開発プロジェクト ①実施内容: 専門家(1名)を招集した勉強会(3回)と実証実験(商品販売体験と臨時アンテナショップ)の開催 ②実施時期・実施場所: 勉強会は8~2月にてんぼく地域で。実証実験は10~12月(15日間)に札幌市で。 ③実施目的: 商品開発の企画・勉強・実証実験・評価	【商品開発部会】安全で安心な商品開発プロジェクト 1)実施内容・実施時期・実施場所 ●勉強会: ①10.14・天塩町・25名、②12.23・遠別町・20名+吉川(まーくる)、③01.19・遠別町・25名、④2.01~07・遠別町・20名+吉川、⑤03.12・幌延町・50名+吉川 ●実証実験: 販売体験(①10.13~14、②10.19~20) & 臨時アンテナショップ開設(①10~12、②01~03)+吉川 2)実施結果: 企画・調整開始時期が予定より遅れたため、回数・時期などを見直しながら実施。いくつかの商品が開発され、販売体験やアンテナショップなどで評価を得ることができた。今後は、得られた評価に基づき、販売ターゲットを明確化して開発に取り組むことが必要。	
	【トレーサビリティ検討部会】トレーサビリティ・システム検討プロジェクト ①実施内容: 専門家(1名)を招集した勉強会(3回)と実証実験(システム構築と販売実験)の開催 ②実施時期・実施場所: 勉強会は8~2月にてんぼく地域で。実証実験は9~11月に天塩町・札幌市で。 ③実施目的: 水産物を中心としたトレーサビリティ・システム構築の企画・勉強・実証実験・評価	【トレーサビリティ検討部会】トレーサビリティ・システム検討プロジェクト 1)実施内容・実施時期・実施場所 ●勉強会: ①10.14・天塩町・25名、②12.10・天塩町・10名+桑原(トレサ研)、③01.19・遠別町・25名+三上(北大)、④03.12・幌延町・50名+古屋(北大) ●実証実験(システム構築&販売): ①12.03~04・北キッチン(札幌市)、②12.12~14・コープさっぽろ(札幌市)、③01~03・まーくる(札幌市) 2)実施結果: 企画・調整開始時期が予定より遅れたため、時期などを見直しながら実施。短期間に簡易な「しじみシステム」が構築できたため、今後は、「しじみシステム」の高度化と「他産品システム」の構築に取り組むことが必要。	

	<p>【てんぼくファン開発部会】てんぼくファン・コミュニティ開発プロジェクト ①実施内容: 専門家(1名)を招集した作業(40日)と実証実験(アンケート実施、統一データベース作成、Web等の構築)の実施 ②実施時期・実施場所: 作業は8~3月にてんぼく地域で。実証実験は8~2月にてんぼく地域等で。 ③実施目的: 地元出身者や来訪者・購買者等の個人情報を整理し、情報受発信システムを構築</p>	<p>【てんぼくファン開発部会】てんぼくファン・コミュニティ開発プロジェクト 1) 実施内容・実施時期・実施場所 ●勉強会: ①10.14・天塩町・25名+窪田(キタバ)、②01.19・遠別町・25名+窪田、③03.12・幌延町・50名+窪田 ●実証実験: ①アンケート実施(10.13'14、02.01'28(3ツアー))、②統一データベース作成(10'03)、③Webとパンフレットの作成(01'03) 2) 実施結果: 企画・調整開始時期が予定より遅れたため、内容などを見直しながら実施。内容・水準の高いWebとパンフレットが完成したため、継続的運用体制構築のための人材育成・技術移転が必要。</p>				
	<p>取組③ ツーリズム・カレッジの開催</p>					
	<p>実施主体 主担当: 雪印乳業株式会社幌延工場、北海道遠別農業高等学校、天塩商工会、北海道大学、(株)ドーコンほか(全25組織)</p>					
	<p>当初提案により予定していた計画</p> <p>①実施内容: 専門家(6名)を招集した勉強会(3回)と、シンポジウム等(1回)の開催 ②実施時期・実施場所: 8~3月、てんぼく地域内 ③実施目的: ツーリズムの担い手育成システムの検討と地域での共有化</p>	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>①実施内容・実施時期・実施場所 勉強会(H20.10.14・天塩町)25名+専門家1名(北大・敷田) 実地研修①(H21.1.21'22・黒松内町)3名+専門家2名(北大・森重、宝島・鈴木) 実地研修②(H21.2.24'25・浜中町)3名+専門家2名(北大・敷田&木野) シンポジウム(H21.03.12・幌延町)50名+専門家1名(北大・敷田) ②実施結果: 企画・調整開始時期が予定より遅れたため、内容の一部を見直しして実施(勉強会1回→実地研修2回)。実地研修の成果を踏まえ、地元のニーズや事情とのキメ細かな調整の上でのテーマ・プログラム設定による実地研修と勉強会の開催が課題。</p>				
<p>(7)実施体制</p>	<p>平成20年度の取組実施における体制・役割分担</p> <p>【てんぼく活性化協議会】『個別プロジェクトおよびツーリズム・カレッジの全体調整』および『今後のツーリズムを担う人材を育成するシステムづくり』が役割。会長1名、副会長2名、理事4名、事務局4名で構成され、「ツーリズム・カレッジ」のシステムデザインに関して、北海道大学とキタバが技術的に支援。 【ツアー開発部会】『連携・複合型観光プログラム開発プロジェクト』の推進が役割。部会長1名、部会員3名、オブザーバー1名、事務局で構成され、宮本(NPO法人ねおす) & 鈴木((株)北海道宝島旅行社)が専門的に支援。 【商品開発部会】『安全で安心な商品開発プロジェクト』の推進が役割。部会長1名、部会員3名、オブザーバー1名、事務局で構成され、吉川(まーくる)が専門的に支援し、商品開発事業化検討に関して、HVC戦略研究所が技術的に支援。 【トレーサビリティ検討部会】『トレーサビリティ・システム検討プロジェクト』の推進が役割。部会長1名、部会員3名、オブザーバー1名、事務局で構成され、古屋(北大)が専門的に支援し、トレーサビリティ・システム実証実験の実施に関して、NPO法人水産物トレーサビリティ研究会が技術的に支援。 【てんぼくファン開発部会】『てんぼくファン・コミュニティ開発プロジェクト』の推進が役割。部会長1名、部会員3名、オブザーバー1名、事務局で構成され、窪田(キタバ)が専門的に支援し、アンケート実施支援、統一データベース作成支援、Webとメール・リストの構築をキタバが技術的に支援。</p> <p>取組の実施を踏まえた反省点</p> <p>●取組①(事業推進会議の開催)については、現事務局が中心に担当し、当初予定を超える内容(企画・評価+中間協議)で実施できた。ただし、地元関係者との間の企画・調整・案内・会計などの作業負荷が大きいため、地元専任スタッフを配置して取り組むことが有効である。 ●取組②(プロジェクト別会議の開催と実証実験の実施)については、以下の通り。 ・【ツアー開発部会】については、ツアー実施時期が2月に重なり、企画・調整作業が複雑になったが、コア・スタッフ(旭温泉、北斗観光物産、てしお温泉)の努力もあり、当初予定を超える日数・参加者のもとで実施できた。【商品開発部会】については、10~12月に販売体験&臨時アンテナショップ開設を実施し、生ものなどの商品確保などの上で予算等の問題があったものの、当初予定期間を超えて年度末まで継続することができた。【トレーサビリティ検討部会】については、10~12月にシステム構築&実験販売&アンケートを実施し、実験販売&アンケートは、当初予定を超える回数を実施できた。【てんぼくファン開発部会】については、12月にファン募集を開始したが、入会メリットを伝える情報に乏しかったため応募が少なかったことから、Webとパンフレットの作成に着手し、パンフレットを同封して再度ファン募集を実施したところ、応募者が増加した。 ●取組③(ツーリズム・カレッジの開催)については、北大と協議会事務局が中心に担当した。当初はてんぼく地域のみでの勉強会開催を想定していたが、協議会メンバーとの意見交換に基づき、一部の勉強会を「道内先進地における実地研修」に変更し、有意義な情報を収集・交換でき、参加者から地域住民に発表することができた。</p>					
<p>(8)取組により得られた成果</p>	<p>○成果1→ 地域主導型ツアーの実施による“顔の見える観光客の入り込み”を増やす。 → てんぼく地域のファン(来訪・購入)づくり</p> <table border="1" data-bbox="315 1209 2098 1273"> <tr> <td data-bbox="315 1209 994 1241">H19</td> <td data-bbox="994 1209 2098 1241">H20(当初予定していた目標)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="315 1241 994 1273">20人(幌延町ツアー1回)</td> <td data-bbox="994 1241 2098 1273">60人(てんぼくツアー3回)</td> </tr> </table> <p>H20(実際に得られた成果) → 120人程度(てんぼくツアー3回)</p> <p>現段階(H21.1.26)でのツアー申し込み状況は以下の通りで、当初予定目標を大きく上回った。 1) 遠別ツアー(のんびり温泉たのしみ滞在ふゆプラン) 51名(①H21.02.01~04ツアー 25名、②H21.02.04~7ツアー 26名) 2) 幌延ツアー(真冬のほろのべ“味見”の旅) 見込み20名(定員25名) 3) 天塩町ツアー(てしお温泉ふゆ祭り四季モニターツアーin冬) 見込み50名(定員50名、札幌ふるさと会への配布700名)</p>		H19	H20(当初予定していた目標)	20人(幌延町ツアー1回)	60人(てんぼくツアー3回)
H19	H20(当初予定していた目標)					
20人(幌延町ツアー1回)	60人(てんぼくツアー3回)					

<p>(8) 取組により得られた成果</p>	<p>○成果2→ ツアーやイベントに対する地域住民の“実質的な参加者(担い手)”を増やす。 → てんぼく地域づくりの担い手確保</p> <p>H19 40人 (幌延ツアー1回、天塩交流会1回、遠別勉強会3回)</p>	<p>H20(当初予定していた目標) 120人 (てんぼくツアー3回、勉強会9回、ツーリズム・カレッジ1回)</p> <p>H20(実際に得られた成果) → 230人程度(てんぼくツアー3回、勉強会7回、ツーリズム・カレッジ(実地研修)2回)</p> <p>現段階(H21.1.26)での実質的な担い手の参加状況は以下の通りで、当初予定目標を大きく上回った。 1)てんぼくツアー○60名程度が参加(①遠別ツアー:20名程度、②幌延ツアー:20名程度、③天塩町ツアー:20名程度) 2)勉強会(7回)○170名程度が参加(①H20.10.14・天塩町:25名、②H20.12.11・幌延町:10名、③H21.1.19・遠別町:25名、④H21.2.1~7・遠別町:20名、⑤H21.02.14~15・幌延町:20名、⑥H21.2.21~22・天塩町:20名、⑦H21.3.12・幌延町:50名) 3)ツーリズム・カレッジ○6名が参加(①黒松内町:大森(幌延町)、合田(遠別町)、奥山(幌延町) ②浜中町:二木(天塩町)、吉光(天塩町)、麻林(幌延町))</p>
<p>(9) 今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<p>①「事業推進会議の開催」に関しては、『将来的な広域活性化マネジメント体制のあり方』を主要な協議テーマとしているが、地域内外の公共・公益的組織を中心に、様々な組織において連携可能な取り組みや動きが多いことが把握されつつあり、新規法人組織の設立に加え、既存組織の機能拡充など、多様なパターンの検討・改善が必要である。</p> <p>②「プロジェクト別会議の開催と実証実験の実施」に関しては、以下のような反省点・改善点がある。</p> <p>・【ツアー開発部会】では、個別地域主体の冬期商品に偏ると同時に、地元特産品活用への期待に十分応えられていないという反省から、地域間の連携、地元特産品との複合化を図りながら、通年でツアー開発が必要である。【商品開発部会】では、様々な主体の考えや技量の枠内での商品開発に取り組みがちという反省から、(天塩町のスイーツ、幌延町のとなかい饅頭など)地域外をターゲットとした本格的な製造・販売が期待される商品や、(遠別町の高齢者向け雑炊など)地域内をターゲットとしたコミュニティ・ビジネスとしての製造・販売が適当な商品といったようなターゲットを明確化し、地域・分野を横断して取り組む必要がある。【トレーサビリティ検討部会】では、「しじみ」に関する簡便なシステムについては構築できたが、夏の生産段階から商店等での販売段階にいたる本格的なシステム構築や、「しじみ」以外の水産物や農産物を対象としたシステム構築が課題となっている反省から、対象物の特性に応じたシステム構築に取り組む必要がある。【てんぼくファン開発部会】では、入会メリットを伝えるWebとパンフレットを作成したが、その継続的更新・発行のための体制が構築されていないという反省から、その体制を支える人材育成・技術移転に取り組む必要がある。</p> <p>③「ツーリズム・カレッジの開催」に関しては、勉強会や2地区における実地研修を通じて、参加者がツーリズム・ノウハウを学習できたが、地域全体への普及が少ないという反省から、地元の要望・意見の収集に基づくテーマ・プログラム設定の上での実地研修や人材育成勉強会開催に取り組む必要がある。</p>	
<p>(10) 平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <p>【事業推進会議の開催(継続)】 ・“観光と食と人”に関連する主要組織の広域的なネットワークの拡充と“広域連携組織”の事業計画の立案と調整を図る。</p> <p>【ツアー開発部会の開催(継続)】 ・ツアーの企画・勉強・実施・評価を行い、ノウハウを蓄積し、ツアー販売にむけた事業計画を立案する。</p> <p>【商品開発部会の開催(継続)】 ・商品開発の企画・勉強・実施・評価を行い、ノウハウを蓄積し、商品販売にむけた事業計画を立案する。</p> <p>【トレーサビリティ検討部会の開催(継続)】 ・トレーサビリティの企画・勉強・実施・評価を行い、ノウハウを蓄積し、システム構築にむけた事業計画を立案する。</p> <p>【てんぼくファン開発部会の開催(継続)】 ・地元出身者などのデータベースと情報発信連絡網を充実させながら、マーケティング・システムを構築する。</p> <p>【ツーリズム・カレッジの開催(継続)】 ・設計された人材育成システムを実験的に稼働させながら、事業計画(組織化計画)の立案と調整を図る。</p> <p>【事業推進会議の開催(継続)】 ・地域内外の各種組織と運動した施策や組織のあり方(事業計画の調整・立案)を検討するため、現構成員以外の観光協会・商工会・漁協・農協や民間企業等が加わった事業推進会議(3回)を開催する。〔活用希望制度:地方の元気再生事業の継続支援(想定金額300万円)〕</p> <p>【ツアー開発部会の開催(継続)】 ・通年ツアーの継続的実施を検討するため、今年度、担い手として参画した方々や公益組織(旅館業組合、飲食店組合など)を部会員に加え、ツアーの企画・勉強・実施・評価を行い、ノウハウを蓄積し、ツアー販売にむけた事業計画を立案する。〔活用希望制度:地方の元気再生事業の継続支援(想定金額450万円)〕</p> <p>【商品開発部会の開催(継続)】 ・①全国展開などの本格的な製造・販売と、②てんぼく地域をターゲットとしたコミュニティ・ビジネスとしての製造・販売とを検討するため、今年度、勉強会等に参画した方々や公益組織(旅館業組合、飲食店組合など)を部会員に加え、商品開発の企画・勉強・実施・評価を行い、ノウハウを蓄積し、商品販売にむけた事業計画を立案する。〔活用希望制度:地方の元気再生事業の継続支援(想定金額450万円)〕</p> <p>【トレーサビリティ検討部会の開催(継続)】 ・①「しじみ」をターゲットとした本格的なシステムの構築と、②「しじみ」以外の水産物や農産物などにおけるシステムを検討するため、今年度、勉強会等に参画した方々や公益組織(3町の農協、漁協など)を部会員に加え、トレーサビリティの企画・勉強・実施・評価を行い、ノウハウを蓄積し、システム構築にむけた事業計画を立案する。〔活用希望制度:地方の元気再生事業の継続支援(想定金額600万円)〕</p> <p>【てんぼくファン開発部会の開催(継続)】 ・①Web改良等とパンフレット発行のための人材の育成と技術の移転、②ツアー実施&商品販売を通じたファン・データベースの拡充、③地域で共有できるデータベースシステムの構築などにより、マーケティング・システムを充実させる。〔活用希望制度:地方の元気再生事業の継続支援(想定金額600万円)〕</p> <p>【ツーリズム・カレッジの開催(継続)】 ・平成20年度の実地研修(黒松内町、浜中町)と地元勉強会(2回)を踏まえ、①協議会会員だけではなく、公共・公益的組織や住民からの意見収集、②実地研修(3ヶ所)、③地元人材育成勉強会(6テーマ)、を開催する。〔活用希望制度:地方の元気再生事業の継続支援(想定金額500万円)〕</p>	

「てんぽくツーリズム・ブランドの確立」にむけた基礎調査と社会実験 (北海道てんぽく地域: 幌延町、天塩町、遠別町) — てんぽく活性化協議会 —

平成20年度 地方の元気再生事業
事業実施調書 参考資料

◆主な実施取組の内容◆

取組①: 事業推進会議

実施主体: てんぽく活性化協議会

実施内容・結果: ツアー開発、トレーサビリティ検討、てんぽくファン開発にそれぞれ取り組むメンバーが部会を超えて、情報を共有するとともに、今後の事業実施方針を議論した(3回開催)。

▼事業推進会議



取組③: ツーリズム・カレッジの開催

実施主体: てんぽく活性化協議会(協力: 北海道大学)

実施内容・結果: 学識経験者を招いて天塩町において勉強会を開催するとともに、道内の観光地域づくりの先進地である黒松内町及び浜中町において実地研修を実施した延べ50人が参加。

▼勉強会(天塩町)



▼実地研修(黒松内町)



取組②: プロジェクト別会議の開催と実証実験の実施

【ツアー開発部会】

実施主体: 旭温泉、北斗観光物産ほか

実施内容・結果: 地域住民の協力により、てんぽく地域の真冬の天塩川等の自然環境やシジミ・ホタテ等の食を活かした体験型のモニターツアーを3回にわたり実施(延べ120名が参加)。

【商品開発部会】

実施主体: 北海道遠別農業高等学校ほか

実施内容・結果: 高校生が中心になって開発した「ホタテカレー」など、地元の農水産物を活かした2種類の商品開発を行い、札幌市内3箇所などにおいて試験販売をした(400食を販売)。

【トレーサビリティ検討部会】

実施主体: 北るもい漁業協同組合ほか

実施内容・結果: てんぽく地域の名産であるシジミのパッケージに生産者を識別するラベルを貼付するシステムの開発を行い、当該ラベルを貼付したシジミの導入試験を実施した(1000パックが流通)。

【てんぽくファン開発部会】

実施主体: 幌延町・天塩町・遠別町役場ほか

実施内容・結果: てんぽく地域の最新情報を発信するウェブサイト「てんぽく.net」を立ち上げるとともに、情報誌「てんぽく通信」を発行(2回)。また、モニターツアー参加者等を対象として「てんぽくファンコミュニティ」会員募集を行なった(100人以上が登録)。

▼ツアー(幌延・天塩・遠別)



▼商品開発・販売体験



▼システム構築・販売実験



▼Webとパンフレット



◆取組実施による成果・今後の展開◆

○成果1: てんぽく地域における自然環境や食を活かした体験型ツアーの実施による観光振興・地域活性化の実現可能性を確認した。

○成果2: 地域住民自らが、てんぽく地域の魅力発信、観光客の受入れに参加・協力する機運が醸成された。

○今後の展開1: 今後は、今年度の商品開発やトレーサビリティ検討の成果を活用して、てんぽく地域を訪問する体験型ツアーの内容充実を図るとともに、ツアー参加者に対する継続的な情報発信により、リピーターの拡大を図る。